

ミモリといちやらば  
安定期えつちがしたい！



**DOJIN**  
**R18**

成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止



# じんぶつしょうかい ☆せのじゅん



**勇美カエデ**  
ねこ好き。



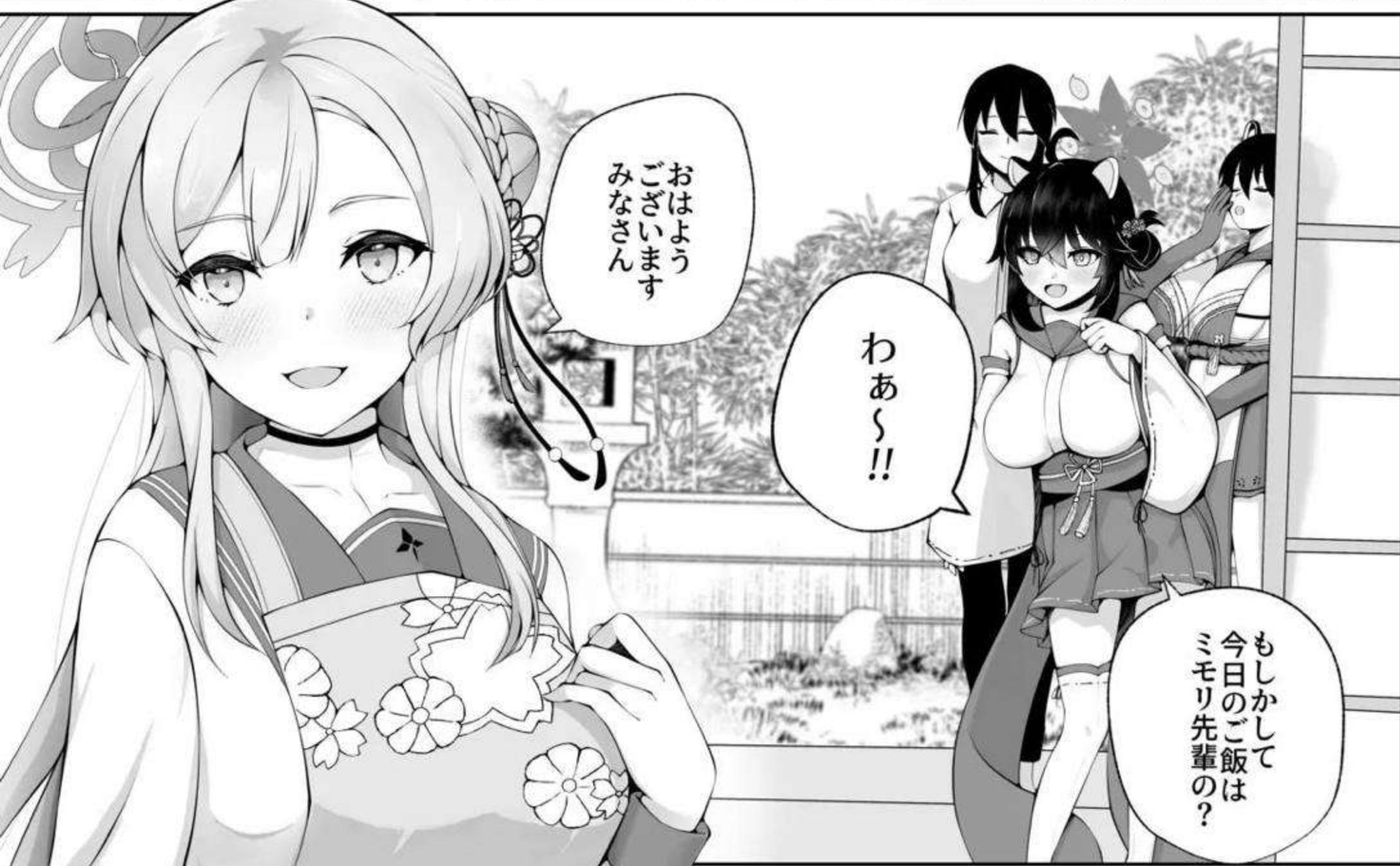
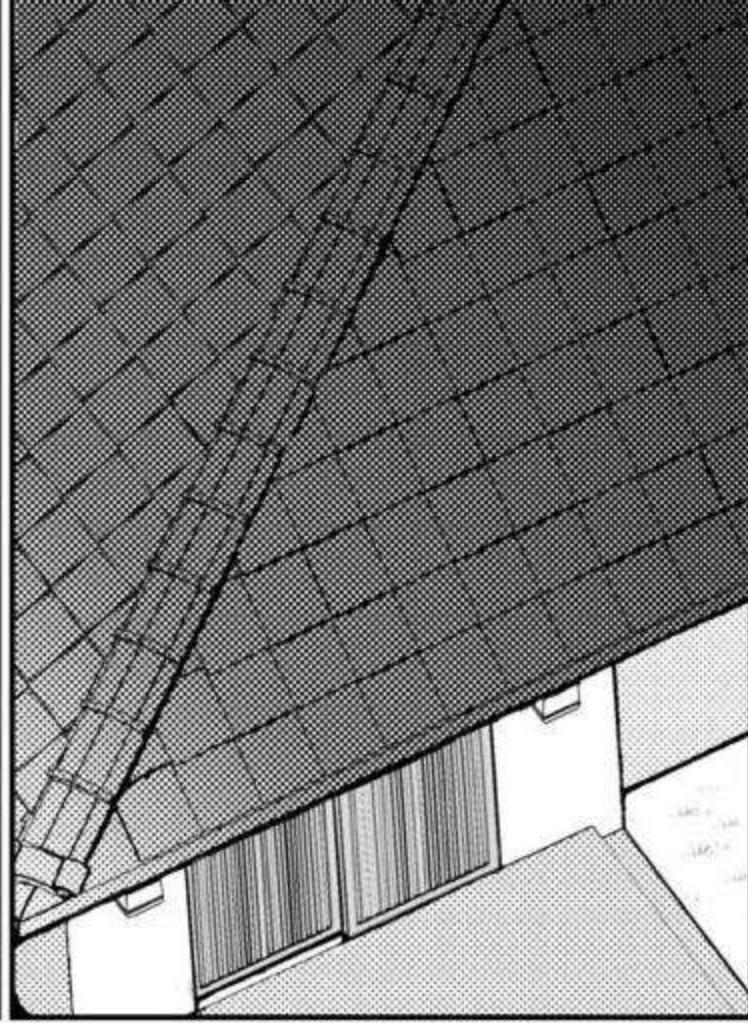
**水羽ミモリ (妊娠4ヶ月)**  
百鬼夜行連合学院 修行部副部長。  
先生との赤ちゃんを妊娠中。(現在妊娠14週)  
ねこ好き。

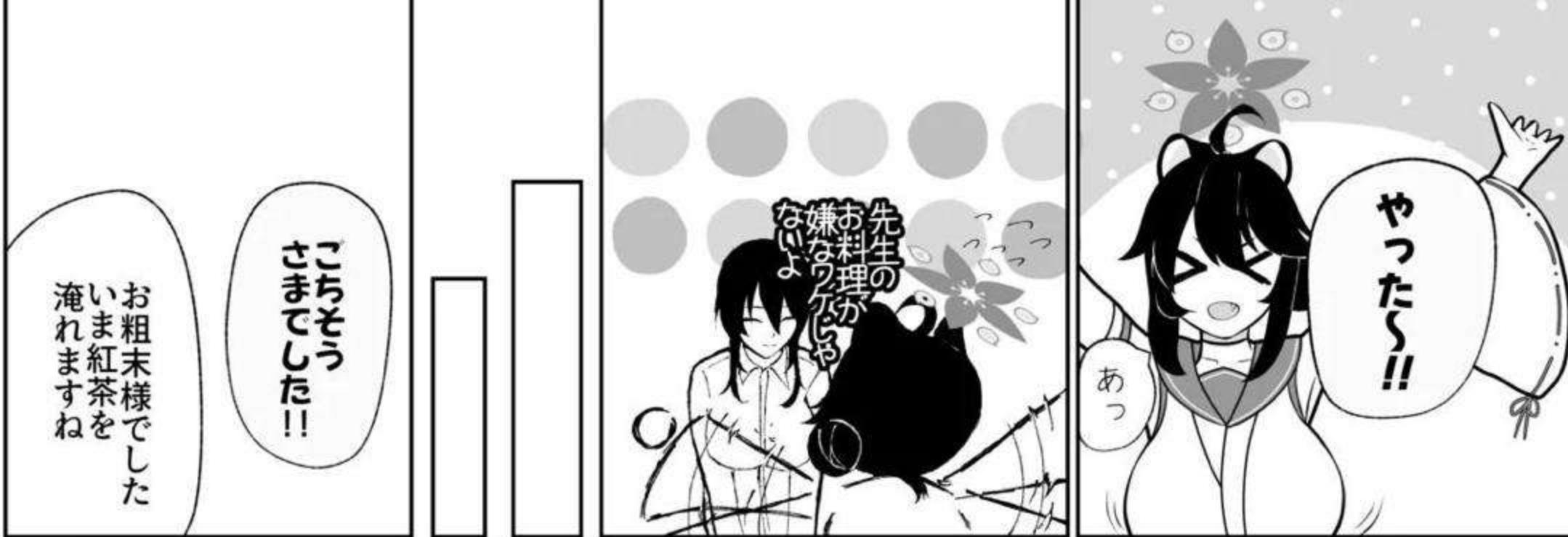


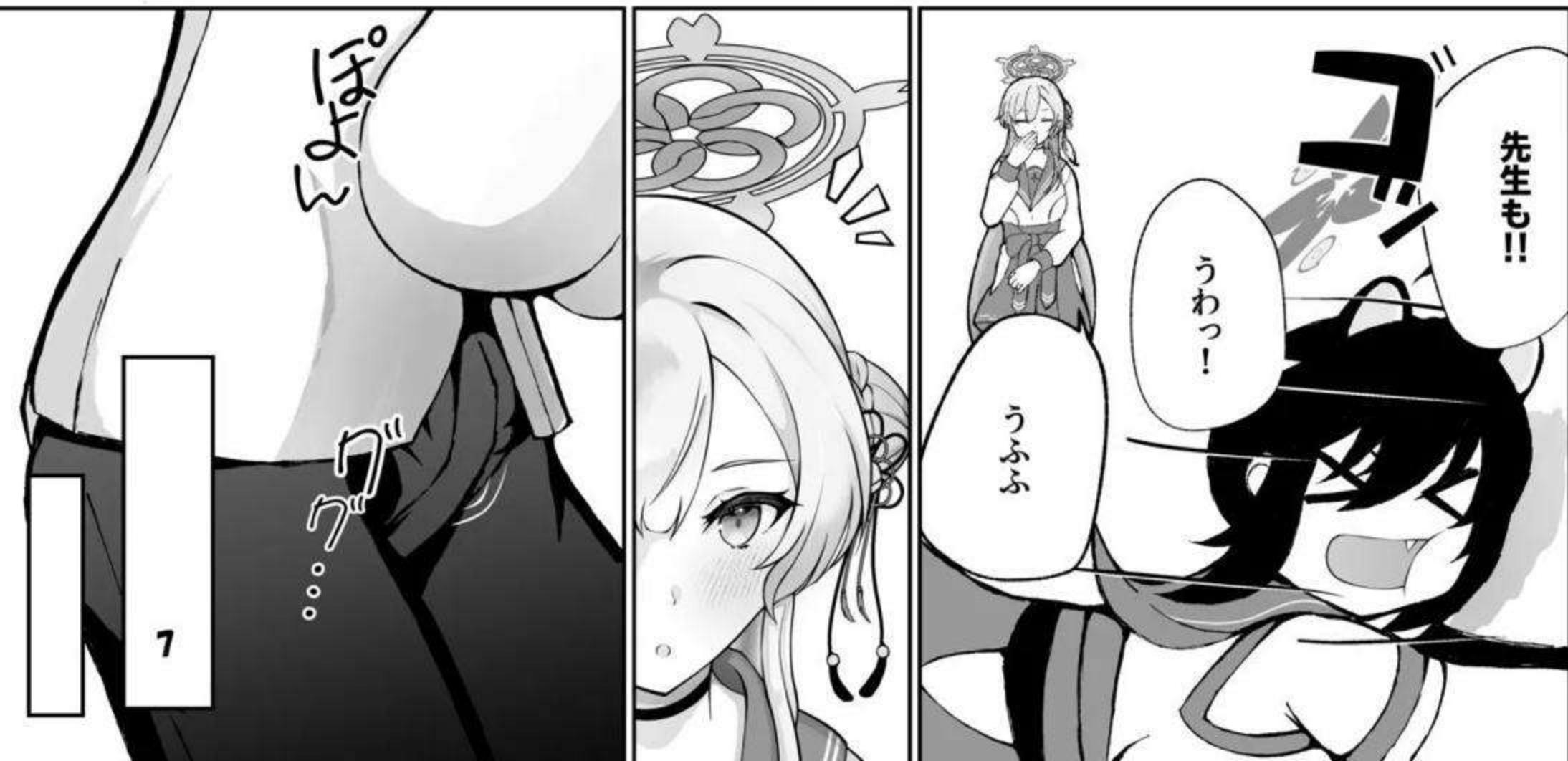
**春日ツバキ**  
ねこ好き。

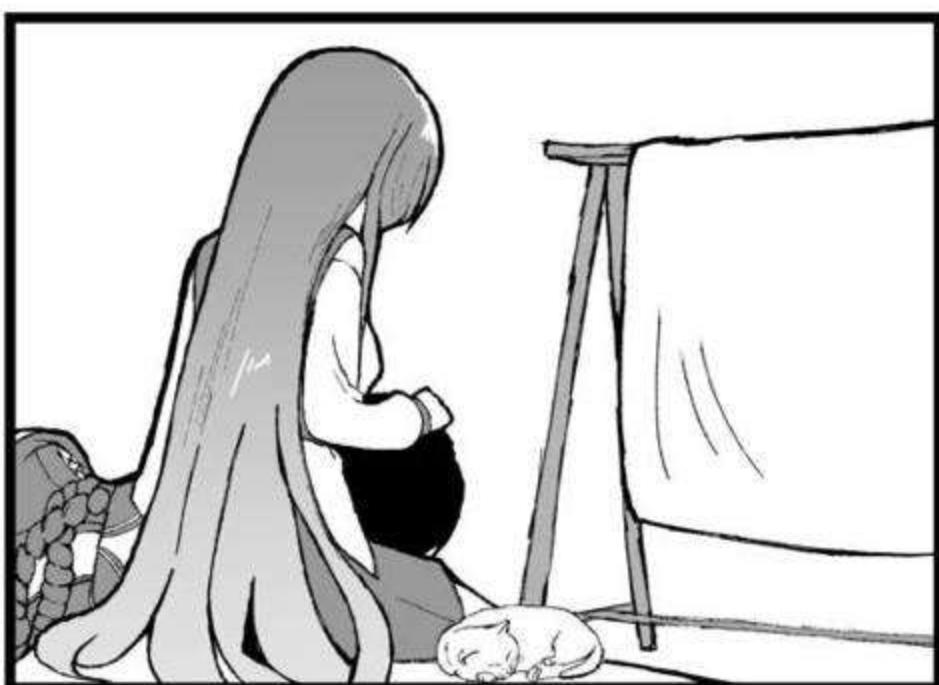


**先生 ♀**  
類稀なる指揮能力を持つ、シャーレの先生。  
ちんちん生えてる。  
ねこ好き。















私も楽しかったよ  
久しぶりに  
子どもたちと遊べて…

ミモリは？

いつも  
ありがとうございます  
ミモリ

あら嬉しい

ツバキちゃんや  
ねこさんと  
しウトウト

していました

ぽかぽかして  
良かつたです

想像するだけで  
素敵な空間ね

ついでにお布団を  
干したのですよ  
ふかふかですよ

そんな、私も幸せです…  
先生のお傍にいられて  
赤ちゃんまで授かって…

私は果報者ね  
働き者で、よく  
傍気がつくミモリが  
いてくれて…

いつだって私は

でも

思禁欲が苦だと  
思ったことはないわ  
シようと思えば  
一人で発散もできた  
ワケだし

恥勃力  
ずつ工のデ  
かじいけど…  
は流石に

やはり“溜まつて  
おいででしょうか…  
お相手できなかつた  
ばっかりに…”

お風呂の時も  
気を遣つて  
もらつちやつたね







お布団  
ふかふかだね



お好きですね?



ミモリも  
やわらかい



それに不思議と  
気持ち良いですから...♥

ほんとだ  
ミモリのココ...  
濡れてきてる...

あつ  
くちゅ...

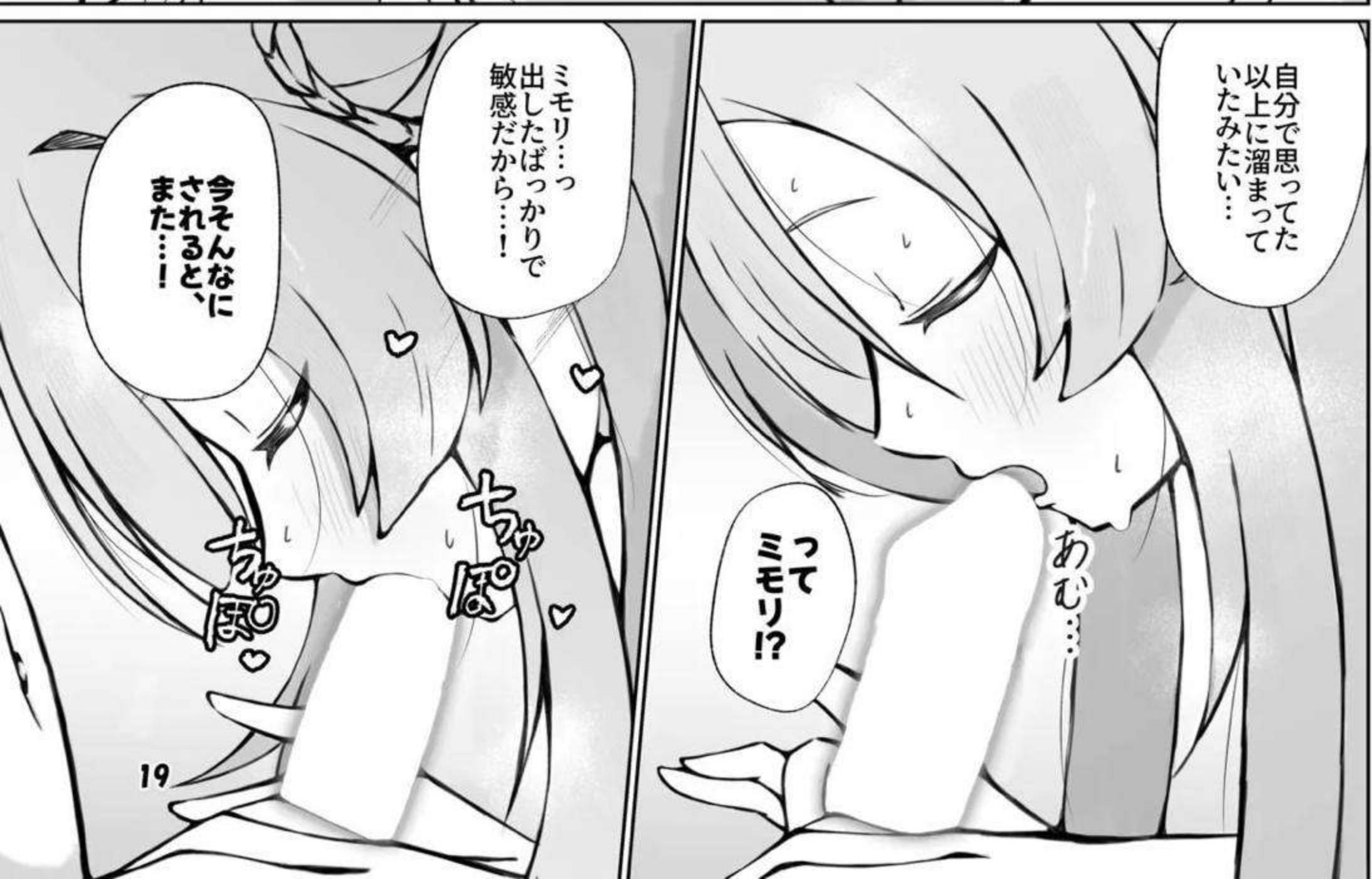
はい...  
♥

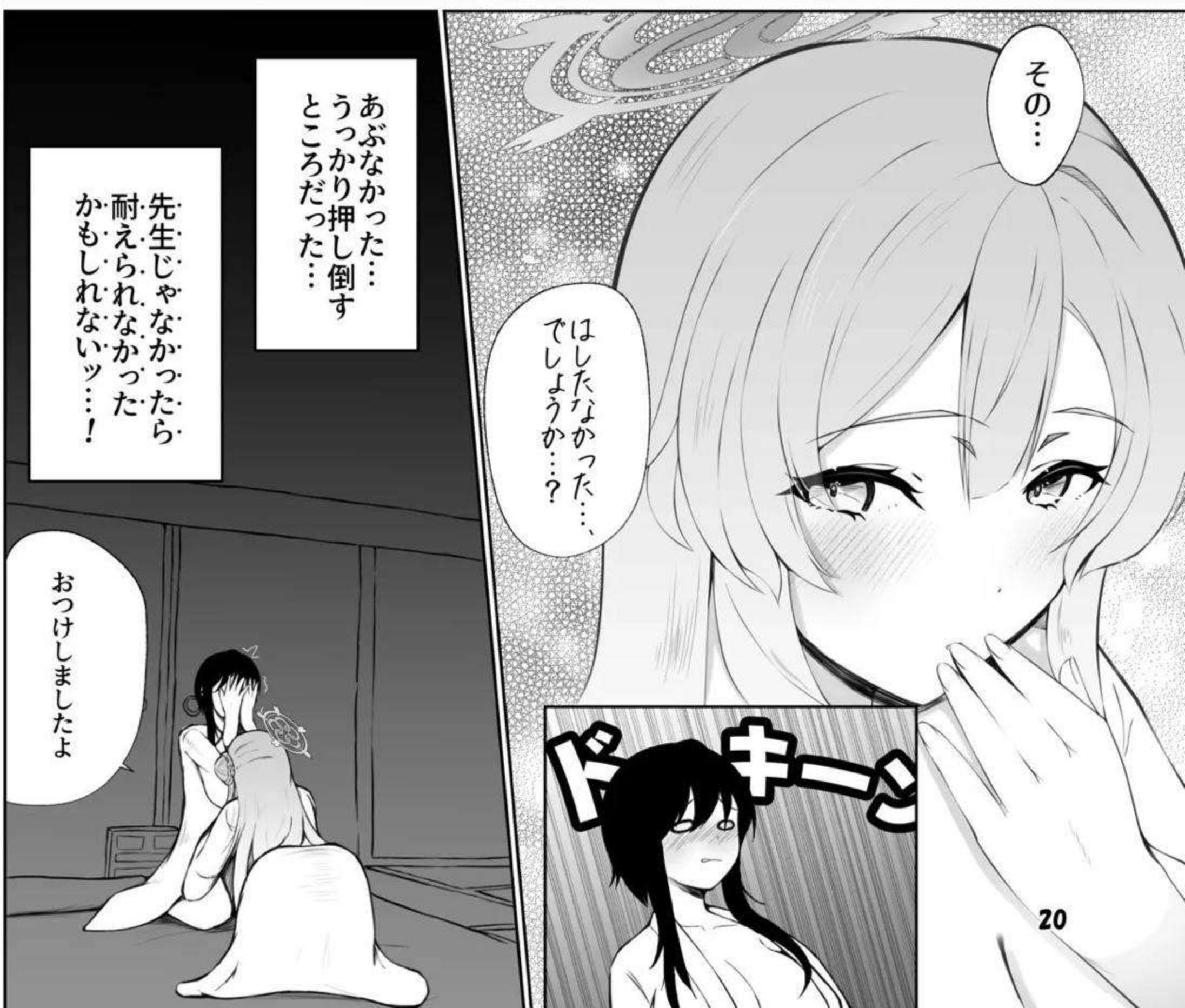
うん、ミモリも  
良くなつてね

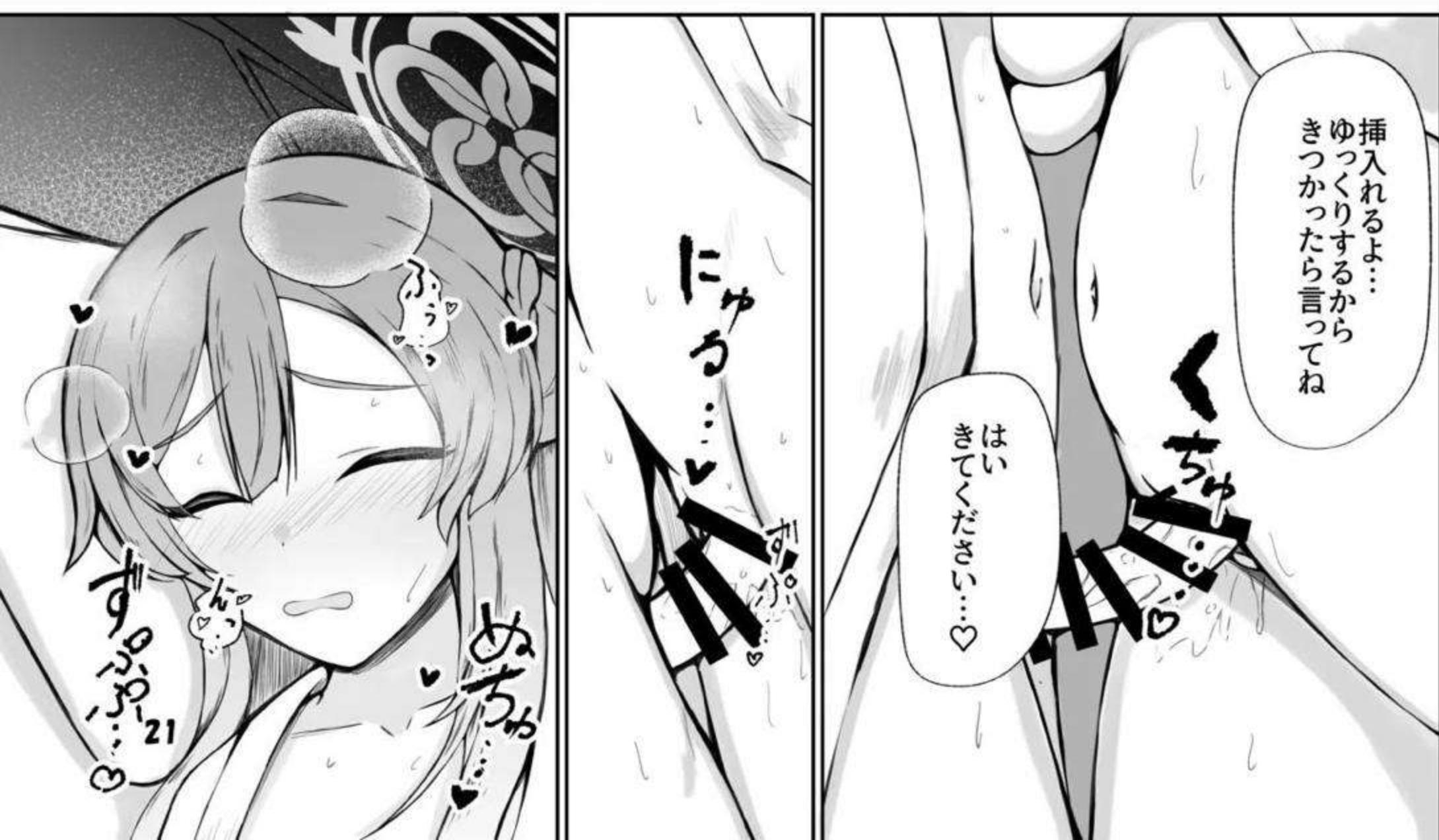






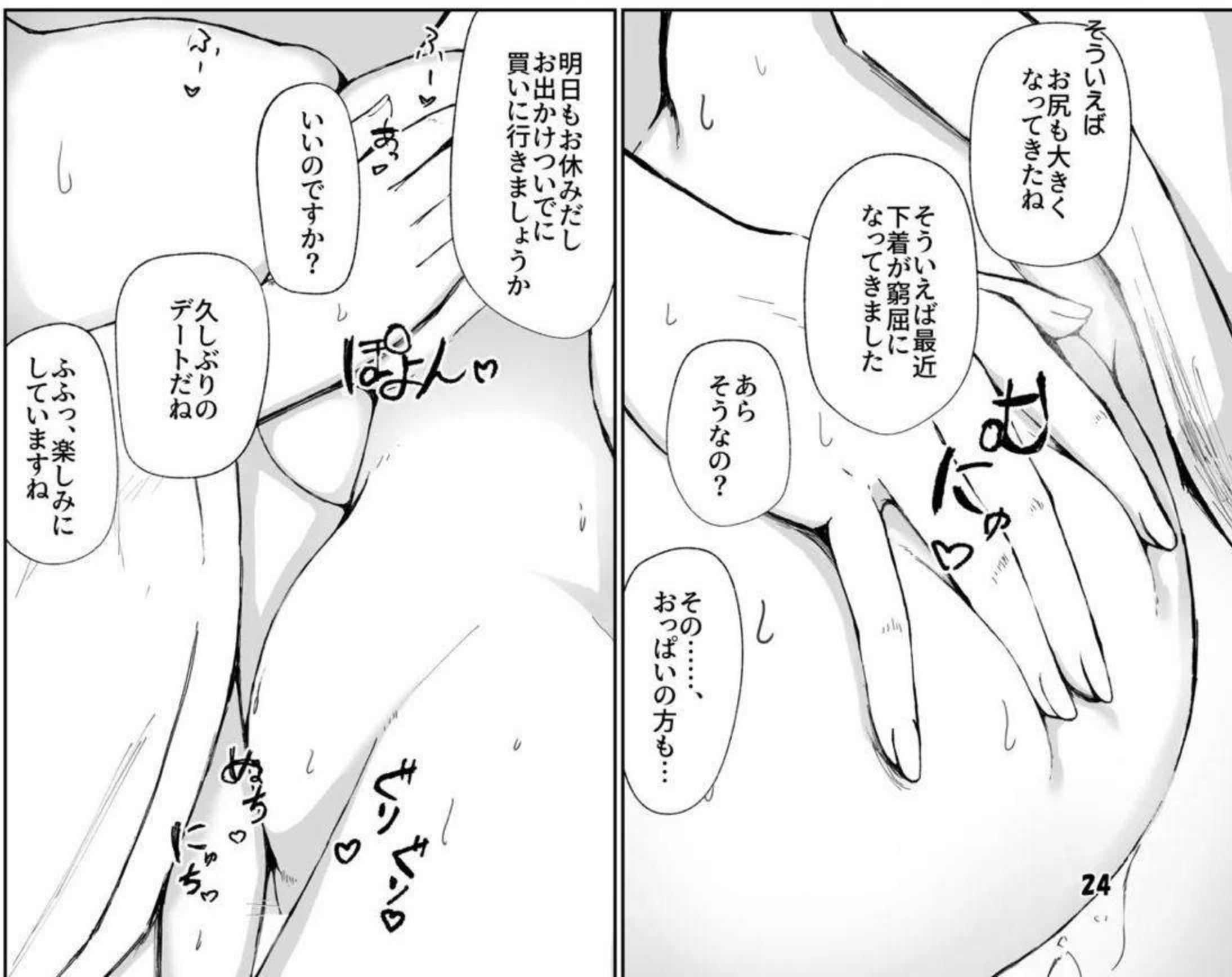


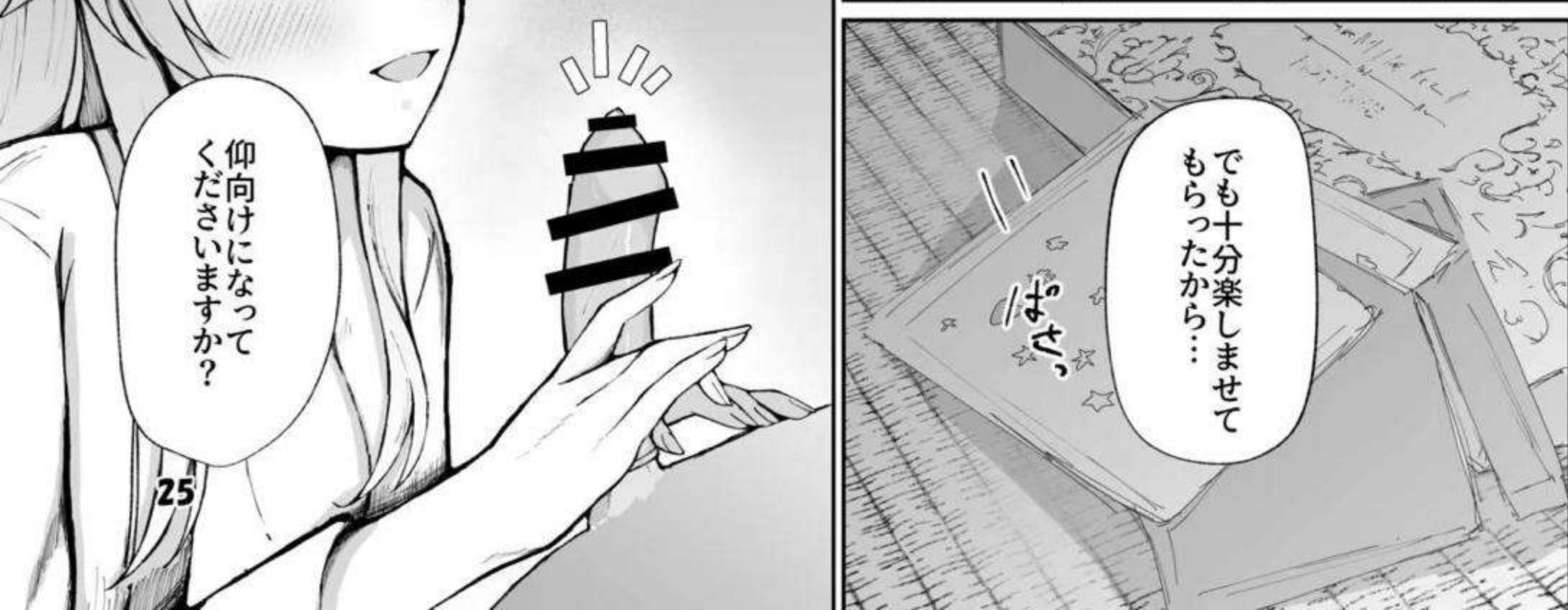


























生涯、貴方のお傍に

## 奥付

『ミモリといちやらぶ安定期えっちがしたい！』  
2024年 12月29日発行



著者 : 影蝶透、  
サークルロゴデザイン : ふたつのピーナツ 様  
(Twitter ID:@Nama\_Eda\_4)

発行 : マジカル影蝶透  
(Twitter ID:@shishou9119 連絡先: shishyou81281@gmail.com)  
印刷所 : ねこのしっぽ 様

※本書を無断で複製、転載、オークション出品することを禁じます。  
※本書は非公式二次創作です。  
実際のゲーム内容及び、実在の団体とは一切関係がありません。

# あとがき

寒冷の候、みなさまにおかれましては、『ロマンシングサガ2リベンジオブザセブン』(以下、原作をロマサガ2。リメイク版をリベサガ)をお楽しみのことだと思います。私はまだプレイできませんでしたが!? ロマサガ2はですね、子どもの頃からSFC版、WiiのVC版、携帯アプリ版、リマスター版と、数え切れないほど遊んできました。今なお大好きなゲームの一つです。ニンダイでPVが流れた時、1音目で気付きました。親の声より聞いたOPですからね。発売日が公開された時、なんとかそれまでに原稿を終わらせられないか、スケジュールを練りました。また、どう計算しても間に合わないと分かった時には、冬コミを欠席することも考えました。しかし、今こうしてこれを読んでいる人がいるということは、私は今日まで我慢できたということです。褒めてほしい、レオン様に。というのも、やはり河〇神に顔向けできないという気持ちもありました。(勝手な信仰です)「自分がこれまでできたことから、残された時間で何ができるのか考えなさい」とは河〇神の言ですが、それに則った形ですね。ありがとう河〇神……さて、話を本題に戻しますが、ロマサガ2は小さい頃から何度も遊んできたのは先述した通りなのですが、一番楽しかったのは大人になってからプレイした時ですね。私の家、というか兄弟はみんなロマサガ生まれロマサガ育ちと言ってよく、DQやFFは家にありませんでした。あと、こないだ実家に帰つたらロマサガ3のROMが3つありました。兄がもう1つ持ってるらしいです。1人につき1つROMあんじやん。そんなロマサガブラザーズですが、子どもの頃はバトルの面白さばかりに興味を惹かれていきました。しかし、大人になって改めてプレイしたところ、シナリオの良さに感動することになります。また、その独自のシステムもシナリオの良さを支えていることもあります。本作のストーリーは、主人公の「皇帝」が仇敵「七英雄」を討つために、国を挙げて戦いに身を捧げる、というものです。基本的には復讐劇なのですが、七英雄を追う旅の中で、出会う人々の願いを聞き入れずにはいられないところに、皇帝のヒーロー性を感じられますね。そんな本作のストーリー、及びシナリオを彩るシステムを以下にいくつか紹介します。まず、なんといっても継承システムでしょう。本作の皇帝は、強大な七英雄に対抗するために、記憶を技術を次代に完璧に引き継ぐ「伝承法」なる術法を使います。皇帝が道半ばで倒れても、その志を継ぐ者が先帝の無念を晴らすために戦うのです。継承していくことで皇帝は、定命のものではありえないほどの記憶と技術を有していくことになります。また、皇帝が入れ替わっていく中で、時代が数十年、数百年と大きく動くこともあります。これにより、七英雄という存在の強大さを同時に表現しています。伝承法を使ってなお、討伐するのに数百年、数千年と掛かる相手なのですから。次に、マスターレベルと技道場というシステムです。伝承法を使って完璧に能力を引き継ぐのは皇帝になったキャラのみです。他のパーティメンバーは伝承法を使いません。では、他のキャラは時代を越えたら育て直しなのか? そうではありません。個々人が鍛えた技術や磨いた技は、帝国に蓄積されていきます。そうすることで、次代のキャラもある一定の能力を有したところから始められるわけです。これがマスターレベルです。また、技道場では兵士が「先達の技を失わぬよう研究しております」と、先達が閃いた技を残してくれてあり、そのまま使うことができます。車輪の再発明は必要ないということですね。伝承法は明らかに人の域を超えた術法ですが、このマスターレベルや技道場は、当たり前の人の営みと言えます。それがいつか七英雄を討つのです。次はLPですね。LPは「ライフポイント」の略で、HPとは別に設定されており、そのキャラの生命力を表しています。年配のキャラや、病弱なキャラほど低く設定されている場合が多く、寿命も表していると捉えることができるでしょう。LPは基本的に回復することができません。この値が0になると、そのキャラは死んでしまい、永久にパーティから外れてしまいます。蘇生する方法はありません。七英雄との戦いは熾烈を極めますから、LPを削りながら戦うことになります。どんなに優れた戦士でも、その人が満足に戦える時間は限られています。長い帝国史の中では一瞬のことなのです。それが、とても物悲しく思えます。しかし、そこで出てくるのが先述のシステムです。その人が戦えなくなってしまっても、鍛えた技は、磨き上げた技術は、決して無くなることはなく、帝国に脈々と受け継がれていくのです。きっといつか、先達の技が仇敵を討つことでしょう。と、まだまだあります、これ以上はキリがないのでこの辺りで。次は、本作のシナリオについて触れます。「インペリアルクロス」や「流し斬りが完全に入ったのに…」など、ひと昔前からインターネットに触れている方であれば、一度は見聞きしたことがあるであろうフレーズですが、どちらもロマサガ2出身です。今回は「流し斬りが完全に入ったのに」というシーン及び、その前後の流れをご紹介します。ゲームを開始すると、最初にプレイヤーが操作することになるキャラクターは皇帝のレオンです。レオンはどうやら、次男のジェラールに実戦経験を積ませるために、モンスターの討伐に来ているようです。討伐を終え、国に帰るとレオンが凱旋するシーンが流れます。原作においては、セリフもなく、ただレオンが真っ直ぐ走っていくだけですが、そこに子どもが数名付いていく演出に感じるものがありますね。きっと子どもに慕われる、優しくヒーローのような存在なのだと。さて、城に戻ると玉座を守っているのは長男のヴィクトール。ここで、このヴィクトールが玉座を任されるほどの立派な男であることが伝わってきます。ヴィクトールは弟が可愛いのか、何も勉学に秀てるジェラールを戦いに出すこともないでしょうと、父レオンに進言します。レオンはこの戦乱の世にあってはそもそもいかないと返します。そこへ、街に滞在している魔導士がレオンに謁見を求めてきます。何やら七英雄の1人、クジンシーが怪しい動きをしているとのこと。この時点では、七英雄とはその名の通り、伝説の存在で救世の英雄だという認識です。レオンもまさかと思い、一度頭の片隅に追いやりました。しかし、その認識は次の遠征から帰ったところで一変します。城門が破られ、兵士たちが倒れているではありませんか。その中には今にも事切れそうなヴィクトールの姿が。急いで駆け寄ると、「流し斬りが完全に入ったのに…」これがヴィクトール最後の言葉でした。レオンは生き残りの兵士に、ありのままを話せと命じます。兵士の話によると、七英雄のクジンシーが攻めてきて、ヴィクトールの流し斬りをものともせず、「ソウルスティール」という技でヴィクトールを一撃で屠ったとのこと。その話を聞いたレオンは、先の魔導士を呼びつけます。ヴィクトールの死を受け、悲しみに暮れるジェラール。そこへ、魔導士との話が終わったレオンが来て開口一番「行くぞジェラール、弔い合戦だ!」と。すぐさまジェラールと兵士を連れて、クジンシーが居を構えるソーモンへと攻め入ります。ヴィクトールの仇を討つために。相手はレオンが最も信を置くヴィクトールを破った七英雄クジンシー。レオンも無策で往くとは考えられません……。しかし、レオンもまたクジンシーの「ソウルスティール」に倒れてしまします。命からがら帝国へ逃げ延びた一行。死の淵にあるレオンが、ジェラールへと最期の言葉を伝えます。その内容とは、伝承法なる術法のことでした。先の魔導士がレオンへと伝えたようです。これを信じるしかクジンシーに勝つ術はない、自らクジンシーの「ソウルスティール」を喰らい、対策を見出したとのこと。そうなのです、レオンはヴィクトールが敗れた時点で、並大抵で敵う相手ではないと冷静に判断し、自らを犠牲にして「ソウルスティール」を見切り、その記憶ジェラールへと受け継ぐことで、国としてクジンシーに勝つ道を見据えていたのです。そうして伝承法により、ジェラールへとレオンの記憶が受け継がれます。そこでジェラールは偉大な父の真意や覚悟、息子への愛情を知ります。敬愛する兄に続いて父までも失ってしまったジェラール。悲しむ暇もなく立ち上がり、部下が待つ廊下へと出ます。廊下では、未曾有の危機に文官や兵士たちが狼狽えています。なにせ、皇帝と長男を一度に失ってしまったのですから。残ったのは、才はあるど未熟なジェラール。そこへ、泣きつ面に蜂とはこのことでしょ、ゴブリンが城下町へ襲撃を仕掛けてきたのです。さらに動搖を増す臣下たちにジェラールは声を掛けます。  
34  
の数は? 城壁を破るほどか? と。先ほどまでのジェラールと明らかに様子が違うことは、臣下たちもすぐに気づいたことでしょう。しかし、傭兵のヘクターはまだジェラールが、命を預けられる存在とは信じられない様子。無礼な口を利く傭兵に文官が怒りを露わにしますが、ジェラールが諫めます。付いて来れる者だけでよい、町に蔓延り民を苦しめるゴブリンを返り討ちにするぞと そう宣言する顔はもはや未熟な少年坊などではなく、一風を背負う君主の貌をしていました。

